

1. 開催概要

展覧会名	リヒテンシュタイン 華麗なる侯爵家の秘宝	
開催施設名	会期	入場者数
国立新美術館	2012年10月3日～12月23日	256, 343人
高知県立美術館	2013年1月5日～3月7日	39, 884人
京都市美術館	2013年3月19日～6月9日	139, 313人

●開催概要

リヒテンシュタイン侯爵家の全面的な協力のもと、ルーベンスの歴史画の大作「古いの結果を問うデキウス・ムス」（デキウス・ムス連作より）をはじめ、絵画、彫刻、美術工芸品など多彩な分野から厳選された名品をそろえ、リヒテンシュタイン侯爵家が500年にわたり収集してきたコレクションの全容を展覧。芸術の保護と一流品の収集を家訓とする侯家の審美眼にかなった、ヨーロッパ美術品の粋を紹介した。

展覧会は、「リヒテンシュタイン侯爵家と美術コレクション」「名画ギャラリー」「クンストカンマー：美と技の部屋」「バロックの世界」の4章で構成した。特に「バロックの世界」に関しては、ウィーンで公開されている展示の様子を、「バロックサロン」として再現する部屋を設け、家具、彫刻、タペストリーなどのほか、日本の展覧会で初となる実際の天井画を天井に展示し、来場者がバロックの世界を実感できる展示を実現した。展示作品は、絵画、版画、彫刻、タペストリー、家具、工芸などの計139点となった。

バロックサロンの展示は今まで日本の展覧会にはなかったバロック美術の総合的な紹介として、新聞、雑誌、テレビ番組など各種メディアで取り上げられ、また大作を含んだルーベンスの油絵10点の展示も話題となった。入場者数は当初見込みが東京28万人、高知3万人、京都18万人、合計49万人に対して、東京25万人、高知4万人、京都14万人、合計43万人と高知以外は下回ったが、入場者の大多数から肯定的な評価を得た。

2. 補償制度の活用による国民的利益に関する取組結果

<p>①展示作品の質・量の充実</p> <p>出品作に西洋美術史上の巨匠の代表作が数多く含まれ、総評価額が400億円を越すなか、美術品補償制度の適用を受けることによって、ラファエッロ『男の肖像』、ルーベンス『マルスとレア・シルヴィア』、ヴァン・ダイク『マリア・デ・タシスの肖像』などの作品が新たに可能になり、展覧会全体の質・量の充実が可能になった。</p>
--

②観覧料の軽減、無料化

[国立新美術館]

中学生以下の入場無料とともに、高校生を対象に従来は会期中で3日間実地していた無料日を拡充し、10月～11月の土日祝日、計18日間とした。無料期間中の高校生入場者は1,082人となり、当初目標800人を越え、見込み以上の結果を出した。

[京都市美術館]

特別展では従来行われていなかった中小生の入場料金無料化を会期中、土日祝日、計28日間実施した。結果として無料期間中の中小生入場者は2,882人となり、当初目標の3,100人には少し及ばなかったが、一定の役割を果たした。

③教育普及活動の充実

[国立新美術館]

●記念講演会 「リヒテンシュタイン侯爵家コレクションの歴史と特性」

日程：2012年10月4日 14:00～15:30

会場：国立新美術館3階講堂

講師：ヨハン・クレフトナー（リヒテンシュタイン侯爵家コレクション・ディレクター）

参加者人数 235人

●記念講演会 「バロック美術の殿堂 リヒテンシュタイン宮殿の名画を旅する」

日程：2012年10月13日 14:00～15:30

会場：国立新美術館3階講堂

講師：千足伸行（日本側監修者・成城大学名誉教授）

参加者人数：262人

[高知県立美術館]

●記念講演会 「リヒテンシュタイン侯爵家コレクションの歴史と特性」

日程：2013年1月5日 11:00～12:00

会場：高知県立美術館2階講義室

講師：ヨハン・クレフトナー（リヒテンシュタイン侯爵家コレクション・ディレクター）

参加者人数：68人

●サタデーレクチャー 「近代ヨーロッパ絵画の展開」

日程：2013年1月26日 14:00～15:00

会場：高知県立美術館2階講義室

講師：奥野克仁（高知県立美術館学芸員）

参加者人数：30人

●サタデーレクチャー 「バロック美術の魅力」

日程：2013年2月23日 14:00～15:00

会場：高知県立美術館2階講義室

講師：奥野克仁（高知県立美術館学芸員）

参加者人数：20人

●ギャラリートーク

会期中の毎週日曜14～15時、展覧会場にて高知県立美術館学芸員（奥野克仁、高木瑞季）が解説をした。

参加者人数：のべ300人

[京都市美術館]

●記念講演会 「リヒテンシュタイン侯爵家コレクションの歴史と特性」

日程：2013年3月20日 14:00～15:00

会場：京都市美術館講演室

講師：ヨハン・クレフトナー（リヒテンシュタイン侯爵家コレクション・ディレクター）

参加者人数：86人

●記念講演会 「侯爵家コレクションにみる静物表現の魅惑」

日程：2013年4月6日 14:00～15:30

会場：京都市美術館講演室

講師：蜷川順子（関西大学文学部教授）

参加者人数：29人

●展覧会解説講座 「リヒテンシュタイン展の見どころ」

日程：2013年4月27日、5月18日 各会14:00～15:00

会場：京都市美術館講演室

講師：後藤結美子（京都市美術館学芸員）

参加者人数：2日間合計148人

●ワークショップ 「ネイル美術（アート）してみよう」

日程：2013年3月24日 13:30～16:30

会場：京都市美術館講演室

講師：比果彩（美術家）

参加者人数：12人

●ワークショップ 「Snack Jewel」

日程：2013年3月30日 13:30～16:30

会場：京都市美術館講演室

講師：CHIMASKI（チマスキー）

参加者人数：11人

●ワークショップ 「リヒテンシュタイン侯爵家の宮殿をビーズで飾ろう」

日程：2013年5月4日 11:00～13:00、14:00～16:00

会場：京都市美術館講演室

講師：島田弓子（ビーズファクトリー講師）

参加者人数：2回合計22人

●ワークショップ 「プリザーブドフラワーで名画を華麗にアレンジ！」

日程：2013年6月1日 14:00～15:30

会場：京都市美術館講演室

講師：福井涼子（フローリスト京阪 デザイナー）

参加人数：21名

3. 事故の有無(軽微な事故、ヒヤリハット事例も含む)

万全の体制で輸送・展示作業を行ったこと、また、会期中も警備・監視要員を十分に配置していたことから、ヒヤリハット事例も含め、事故はまったくなかった。

4. 安全配慮に関する特別の対応

作品輸送時には車輛に日本側主催者またはリヒテンシュタイン・コレクションのクーリエが同乗した。クーリエは所蔵館の学芸員あるいは修復家で、開梱時と梱包時の作品の点検に携わった。輸送・陳列作業時には美術品輸送に実績のある輸送会社としてオーストリア航空の旅客便と、日本貨物航空の貨物便を使った。また梱包・輸送作業については、現地ではリヒテンシュタイン美術館の美術品梱包を担当している **Kunsttrans** が、日本では日本通運が担当した。警備・作品保全の環境が整った施設で開催するとともに、期間中の警備員・監視員による巡視体制も整えた。

本展の最も重要な絵画作品の一つ「占いの結果を問うデキウス・ムス (ルーベンス)」はイメージサイズで 294cm×412cm の大作であった。額付きだと大きすぎて飛行機に入らず、額自身が芸術的な価値が高くまた壊れやすいので、額と絵はそれぞれ別の箱で輸送した。また絵だけでも箱が貨物室の入り口の高さを超えてしまうので、絵を斜めに入れ安全に固定できる特別な箱を用意した。

5. 紹介事例・今後の改善点等

これだけ大規模にリヒテンシュタイン・コレクションが貸し出されたのは、世界でも1985～86年にニューヨークのメトロポリタン美術館で開催されたコレクション展以来である。本展は長い間日本での開催が望まれていたが、美術品補償制度の適用により、日本において質・量とも十全な形で実現することができたと思う。

ルネサンスから19世紀にいたる西洋絵画の名作を紹介できたが、なかでも大作を含んだルーベンスの展示は、この巨匠の巨匠たる所以を観客に伝えることができたと考えている。また絵画、彫刻、工芸品を一つの空間の中で総合的に展示したバロック・サロンは、それぞれのジャンルが時代の中で互いに絡み合っていると言う事を日本人に理解してほしいため企画され、展示の一つの可能性を示唆したと思う。

展覧会を実現していく過程で、本制度についてなかなかリヒテンシュタイン側の理解を得られず、何度も詳しく説明してようやく了承を得ることができた。実績を積み重ねることにより、だんだんと世界で本制度の理解が進んでいくことを期待したい。

本制度の適用については、展覧会ホームページ並びに展覧会場入り口のメイン看板上にその旨を記載した。国立新美術館での高校生無料日と京都市美術館での小中生無料日の設定については本展関連印刷物に記載して周知に努めた。

輸送計画の実施に際し、安全性の見地から、不適切な運用を行った事例が一部に見られた。今後は、国家補償制度によって付保されているという責任を重く受け止め、スケジュール調整とシミュレーションを十分に行い、安全性の高い計画立案及び実施に努めてまいりたい。

6. 展覧会の収支決算書

主催者名 国立新美術館（東京会場のみ）、京都市美術館（京都会場のみ）、朝日新聞社、東映

(収入)		(支出)		単位：万円
展覧会収入・その他収入	57,213	企画準備等基本経費	24,975	
共催者負担	1,979	設営・運営等会場関係経費	34,217	
収入総額	59,192	支出総額	59,192	

主催者名 高知県立美術館、朝日新聞社、東映

(収入)		(支出)		単位：万円
展覧会収入・その他収入	1,969	企画準備等基本経費	234	
共催者負担	1,425	設営・運営等会場関係経費	3,160	
収入総額	3,394	支出総額	3,394	

注) 美術品保険料は補償制度の導入により、当初想定額よりも約4,115万円、軽減された。